



## サーキットで生まれるエキサイティングな一体感!!

1リットルのガソリンで、どれだけ長い距離を走れるか——。

「Honda エコマイレージチャレンジ全国大会」は50ccのエンジンを使ったオリジナル車両で、燃費の良さを競いあう国内最大級の省エネ・カーレース。昨年は389チームがエントリーした。都立田無工業高等学校・自動車部はこのレースに7年連続で出場している。



ガソリンの量は正確に入念にチェック!

かつて佐藤琢磨選手がF1で乗ったマシンを、空力面で参考にした2号車。バランスの良さが持ち味



搭載されるエンジンはホンダ製の50CCエンジン。



ツインリンクもてぎでのレースの様子 狙うは都立校1位、700km/L超えのレコード!

### たったの1リットルで倉敷まで!

東京都の北西部・武蔵野の地域で50年以上の歴史を持つ都立田無工業高等学校。24の部活・同好会が活発な活動をするなかで、とりわけ工業高校らしい部活動の一つがこの「自動車部」。

クルマ好きが集まって活動を続けてきているが、2006年から燃費性能を競うカーレースへの出場を計画。2年の準備期間を経て、2008年より「Honda エコマイレージチャレンジ全国大会」に連続出場を果たしている。

大会が開かれるのは毎年9月か10月の「ツインリンクもてぎ」。1周2.4kmのオーバルコースで平均時速25km以上をキープしつつ、7周するのに消費されたガソリンの少なさを競いあう。今年も9月19日、20日に開催される。

田無工業高等学校・自動車部のこれまでの最高成績は、出場した都立高校20台中3位。最高燃費は680km/L(練習走行)を誇る。実に1リットルで東京から倉敷まで行ける計算だ。昨年はそれまで所有していた2台の「いいとこ取

り」をコンセプトに、新たにゼロから新車を製作。3台体制でいっそうの記録更新を狙う。取材した3月は、今年大会に向けて、改造案を温めつつ練習走行に励む日々。夏休みには部員の総力を結集して、車両にさまざまな改良を施す予定だ。

### 目指すは、都立校で1位の座

そんな自動車部の魅力について、部員の皆さんに話を聞いた。

部長を務める竹内瑠哉さん(3年)は、入学前の見学で、展示してあった車両と出会った瞬間に入部を決めたという大のモータースポーツ好き。部活の面白さは「100の挑戦をしたら99個は失敗すること」(一同、苦笑)と言う。

「新車設計にはたくさんアイデアを出しましたが、調べてみると多くはかつて先輩方が試したことばかり。そんな具合で、苦労してもほとんどは失敗です。けれども、類似の案を一つずつ潰して残ったアイデアから新車は生まれました。だからこそ、小さな成功、喜びの価値がよくわかります」

同じく3年の樋口健太さんは「奥の深さ」を魅力に挙げる。一昨年の大会で「走行中にチエーンが外れるというトラブルがあった、本当に一筋縄ではいかない」と。それだけに完走できたときには感動しました。



山田好輝さん(3年) 樋口健太さん(3年) 部長の竹内瑠哉さん(3年)



伊藤太一さん(2年)

2年連続、大会でドライバーの重責を担ってきたのは山田好輝さん(3年)。自ら立候補したのは「本物のサーキットを走ってみたいから。やっぱり一般には走れない場所なので。燃費は、スロットルの開け方一つでガラッと変わってしまう。勾配の前にはすこし勢いをつけて上らせたり」とテクニックを明かしてくれる。また、炎天下の運転席はサウナ状態。周回数を間違えたりしないよう、冷静でいるタフさも求められるそう。

「チームワークとか、人とのつながりを学べる部活」と感じているのは2年の伊藤太一さん。「いくら個々人の技術があつたとしても、連携なしに結果は残せません。だから車両自体、1年間積み重ねてきたチームワークの結晶みたいなものなんです」

竹内部長に目標を訊ねると「都立校1位!」と、迷いのない答えが返ってきた。

### スポーツとしてのレースから学ぶもの



伊藤和博先生

顧問の一人で指導にあたる伊藤和博先生は、「自分は最低限しか手を出さないよ

う、ぐつと我慢しています(笑)。主役は彼らなので。単にモノをつくらせてレースに出るだけではなく、モータースポーツを通して、チームワークやコミュニケーションの大切さを学んでもらいたい。あとは好きなクルマを題材に、楽しく部活に打ち込んでもらえればと思っています」と語り、練習走行に精を出す部員たちを見守っていた。

(文) 篠岡潔 写真: 蟻田晴彦 写真提供: 都立田無工業高等学校自動車部